

第6章 計画の評価

1. 施策・事業の効果検証及び計画の見直しの考え方

立地適正化計画に示す目標，施策は長期にわたるものであることから，都市計画運用指針においては，立地適正化計画は概ね5年ごとに評価を行うことが望ましいとされています。

本計画においても，平成50年（2038年）という長期を見据えた方針，施策を定めています。このため，計画の進行管理，評価にあたっては，PDCAサイクルの考えに基づいた概ね5年ごと評価により，計画の円滑な運用を図っていきます。

具体的には，概ね5年ごとに事業・施策の実施状況を確認するとともに，次項で設定する評価指標に基づき，都市機能誘導や居住誘導の効果を検証していきます。また，施策・事業の効果とあわせて，市街地内の都市機能や人口等の変化に応じ，計画の見直しを検討していきます。

【PDCAサイクルのイメージ】



2. 評価指標

立地適正化計画の効果を検証するため，都市機能誘導，居住誘導，そして連携施策である公共交通施策に係る評価指標を定めます。評価指標は，長期的なまちづくりを推進する観点から，目標年度である平成50年度を見据えた長期目標値を定めます。また，立地適正化計画は概ね5年ごとに評価を行うことが望ましいとされていることから，策定から5年後の平成33年度を見据えた短期目標値も定め達成状況を評価します。

(1) 都市機能誘導に係る評価指標

本計画のターゲットを踏まえ、都市機能誘導区域内の「地価（地価公示価格及び地価調査価格の平均）」を評価指標として設定します。

【都市機能誘導に係る評価指標】

評価指標	平成28年度 (現状)	平成33年度 (短期目標値)	平成50年度 (長期目標値)
地価（地価公示価格及び地価調査価格の平均）	52,900円/m ²	52,900円/m ²	52,900円/m ²

(2) 居住誘導に係る評価指標

本計画のターゲットを踏まえ、居住誘導区域内の「人口密度」を評価指標として設定します。

【居住誘導に係る評価指標】

評価指標	平成30年度 (現状)	平成33年度 (短期目標値)	平成50年度 (長期目標値)
居住誘導区域内の人口密度	42.6人/ha	42.6人/ha	42.6人/ha

(3) 公共交通に係る評価指標

本計画と連携した交通計画である大崎市地域公共交通網形成計画において評価指標として用いている「市民バス全路線の年間利用者数」を公共交通に係る評価指標として設定します。

【公共交通施策に係る評価指標】

評価指標	平成29年度 (現状)	平成33年度 (短期目標値)	平成50年度 (長期目標値)
市民バス全路線の年間利用者数	186,502人	192,000人	220,000人

※平成31年4月より古川線が栗原市による単独運行となりますが、それ以降も市民バスの利用者数に加えるものとします。